

編集：山田浩司 & 美澄

Address: 2208 North Quantico Street, Arlington, VA, 22205, USA

Phone: 1-703-241-0621 E-Mail: mickeyy@pc4.so-net.ne.jp URL: <http://www.sanchai.net>

ミッキー、本物のミッキーに会う

山田ファミリー夏の旅行

ウォルトディズニーワールド（WDW）とディズニークルーズの旅を、ようやく実現させることができた。お隣のヒントン御夫妻（ボブさんが筋金入りのディズニーオタク）に始まり、周りの多くの方がフロリダ州オーランドのWDWとカナベラル港からバハマまで往復するクルーズを薦めて下さった。随分前から美澄ママは行きたいと希望していたけれど、浩司パパは東京ディズニーランドの経験からあまり気乗りがせず、今回はパパが通信制大学院のスクーリングのために確保していた日程が、スクーリングをキャンセルしたために偶然空いたために急遽実現した。2週間近い日程を確保し、往路2日、復路4日かけたマイカーでの旅を計画した。

今回は、夏のハイシーズンに、WDW内のリゾートホテルに4泊、クルーズ船内で3泊というかなり贅沢な滞在だった。WDWには4つのテーマパークがあるが、敷地内のリゾートホテルに泊まっていると、テーマパークの入場料と駐車料金はタダだし、移動にモノレールを使ってかなり効率的に動くことができる。テーマパークで買ったおみやげはホテルに配送してもらえる。クルーズの書類手続をホテルで済ませることもできるし、ホテルでもらったカードキーは、クレジットカード代わりにWDWとクルーズ兼用でどこでも買い物や食事に使うことができた。

樹生の名前自体、「ミッキー」と呼んでもらえるよう付けた経緯もある。ミッキーが本物のミッキーマウスと対面するのは時間の問題だったが、ようやくこれが実現し、しかも、樹生には相当に振り回されたけれども最後には「いちばん楽しかったことはミッキーマウスに会えたこと」と言ってくれた。また、千智はディズニーのお姫様キャラクターにご執心で、特にMGMスタジオのアニメ施設やマジックキングダムのアトラクションでは嬉しそうに歓声をあげていた。大奮発して連れて行った甲斐があったというものだ。でも、遊べるだけ遊んだ樹生がクルーズ下船と同時に咳を連発し始め、当初4日とっていた帰路を2日に短縮し、他に観光で立ち寄るつもりでいた場所をキャンセルするはめになった。



でも、子供達のペースに振り回されたパパとママは実はげんなり。子供達のご機嫌を損ねては時間をロスし、期待したように子供達が動いてくれず本当は行きたかったアトラクションの幾つかを犠牲にせざるを得なかった。ここでは子供達が主役だからやむを得ないとはいえ、ここでの我が家の子供達のがまは日常生活に輪をかけるもので、普段の生活以上にストレスをため、慣れない食事も加わって体調を大きく崩した。

家族旅行はそれなりに楽しいけれど、ディズニーだけは暫く御免だとパパもママも思っている。



大西洋に沈む夕日をバックにポーズ
(8月22日、ディズニーワンダー号甲板にて)

フロリダ旅日記

子供達にとってせっかく楽しい旅行も、3歳と5歳ではじきに詳細を忘れてしまうだろう。大人の記憶力もあてにならない中、樹生と千智が将来この「サンチャイ通信」を読んでもくれることを期待して、彼らのパパとママがこの旅でどれだけ苦戦を強いられたか、この場で詳述しておきたいと思う。

日付	行動	寸評
8月17日(土)	<p>朝6時自宅を出発。</p> <p>移動(アーリントン→ノースカロライナ州→サウスカロライナ州→ジョージア州サバンナ)</p> <p>食事休憩2回(ノースカロライナ州ロッキーマウントとフェイエットビル)。サウスカロライナ州走行中大きな夕立に遭遇。ジョージア州最初の観光案内所で宿泊予約。</p> <p>宿泊: Sleep Inn (ジョージア州サバンナ郊外)</p> <p>夕食: Love's Seafood</p>	<p>州間ハイウェイ 95 号線をひたすら南下して、走行距離は約 560 マイル (950km!)、約 9 時間 10 分のドライブ。</p> <p>夕食のレストランは、モーターにあったパンフレットから選んだ。河縁に面した南部風情漂うシーフードレストラン。</p>
8月18日(日)	<p>朝9時にチェックアウト。サバンナ市内観光。</p> <p>ハイウェイ 95 号をフロリダ州ジャクソンビルで下りて少し海岸線を走ってみたが、なんと海沿いの道の海側は大きな邸宅で埋め尽くされていて、海岸に近いのに殆ど見ることができず、結局セント・オーガスティンでハイウェイに戻る。その後はオーランドまで直行。</p> <p>昼食: Pearce's Restaurant on the WaterFront (セント・オーガスティンのマリーナに隣接)</p> <p>宿泊: ポリネシアン・リゾート (WDW敷地内)</p> <p>夕食: 夕方から激しい夕立に遭い、この日はホテル内で軽めの夕食で済ます。</p>	<p>サバンナは、南北戦争ゆかりのかなり歴史の古い町である。大通りの両脇の街路樹の枝が車道に大きく張り出し、そこにスペイン苔が絡みついて着物の袖のようにぶら下がっている風景はいかにも南部の古都という風情だが、なんというか、ワシントン界限と比べて、本当に寂れている感じがする。</p> <p>走行距離はさらに 450km。この日は大西洋岸を走ろうと期待してジャクソンビルでハイウェイを下りたが、待っていたのは大邸宅群。アメリカでは海岸まで私有地化されてしまうのねと少々がっかり。</p>

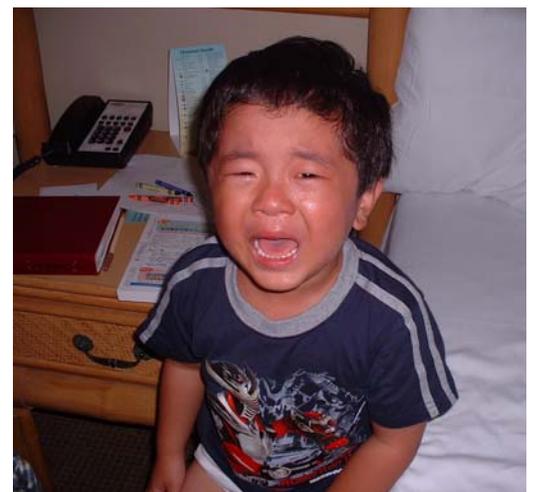
日付	行動	寸評
8月19日(月)	<p>朝7時40分からホテル内OHANA レストランで朝食。ミッキーマウス、チップ&デール、グーフィーが登場して各テーブルを巡回。客は写真撮影、サインもらいに遁走。</p> <p><u>アニマルキングダム</u> 訪ねた施設とアトラクション: It's Tough to be a Bug!, Wildlife Express Train, Rafiki's Planet Watch, Kilimanjaro Safaris</p> <p>昼は園内で軽く済ませた後、午後3時頃ホテルに戻り、樹生の水遊びに付き合う。</p> <p><u>ダウントウンディズニー</u> シルク・デュ・ソレイユのサーカス「ラ・ヌーバ」観賞</p>	<p>OHANA での朝食は、コンチネンタルにポリネシアン味の味付のおかわり自由。胃にもたれた上に家族4人で合計約60ドル!</p> <p>アニマルキングダム最大の教訓は、自分の駐車位置をしっかりと覚えておくこと。駐車場が広過ぎて、探すのが大変だった。</p> <p>「ラ・ヌーバ」には千智の方が興奮!このサーカスは一見の価値あり。ワシントン界限で見れるサーカスとは明らかに違う!</p>
8月20日(火)	<p>朝食は持参してきたパック御飯。</p> <p><u>ディズニーMGMスタジオ</u> 訪ねた施設とアトラクション: The Magic of Disney Animation, Voyage of The Little Mermaid, Star Tours</p> <p>千智はディズニーのお姫様キャラクターにこれまた大興奮。でも朝からプールに行きたかった樹生は不満タラタラ。「スターツアーズ」に乗ってご機嫌回復だったが、これといったアトラクションがなく、結局午後2時には引き上げ。</p> <p><u>エプコット</u> 訪ねた施設とアトラクション: Test Track, Station Cool, The Living Seas, World Showcase, "IllumiNations: Reflections of Earth"</p> <p>夕食は園内の日本レストラン「三越」(高い!)。夜9時になり、恒例の花火イベント「イルミネーションズ」を観賞。10時にはホテルに着くが、その後なんと樹生の水遊び。</p>	<p>MGMの園内で夕立に遭い、雨カップを購入。カップは予め準備しておいた方がよらしい。</p> <p>樹生の「テストトラック」生還にパパ驚く。</p> <p>エプコットの花火は感動的。演出の仕方が日本よりもド派手で、火炎上げまくりで暑い暑い。ここでも最も興奮したのは千智だった。</p> <p>夜10時過ぎでもプールに行きたかった樹生に脱帽。</p>
8月21日(水)	<p>朝8時にクルーズの書類確認</p> <p><u>マジックキングダム</u> 朝食: Tony's Town Square。「くまのプーさん」のキャラクター登場。</p> <p>訪ねた施設とアトラクション: The Many Adventures of Winnie the Pooh, Snow White's Scary Adventures, Bumbo the Flying Elephant, Cinderella's Golden Carrousel, Tomorrowland Indy Speedway, "It's a small world", Peter Pan's Flight, The Haunted Mansion, Pirates of the Caribbean, Walt</p>	<p>樹生の扱いに大苦戦。前日夜に水遊びができたので朝のうちは「プール」を口にできなかったが、列に並ぶのが苦痛でゴーカートの30分待ちすら、自分から希望したのに「帰りたい」を連発。午後には「プール」を思い出し、念願かなってプールに繰り出せたが、残念ながら雷雨で中断。雨が上がるのをひたすら待ち続けていて、結局親が期待したように昼寝をしてくれず、夕食に繰り出した行きの車中で眠りにおち、レストランにいる間起きてくれなかった。</p>

日付	行動	寸評
	<p>Mansion, Pirates of the Carribean, Walt Disney World Railroad</p> <p>「ファンタジーランド」を中心に回り、ゴーカートや幽霊屋敷も訪ねたが、「フロンティアランド」の「ビッグサンダーマウンテン」目前にして樹生が「帰りたい」と主張、午後3時過ぎにホテルに戻る。</p> <p>恒例の水遊びも激しい雷雨で中断。</p> <p>夕食：Taste of Japan（地元の日本食レストラン。ハイウェイ4号線沿線にあり）</p>	
8月22日(木)	<p>ディズニー・クルーズ</p> <p>11時、カナベラル港移民局でチェックイン、12時、ディズニーワンダー号乗船開始</p> <p>昼食：Beach Blanket Buffet</p> <p>4時、避難訓練</p> <p>夕食：Animator's Palate レストラン</p> <p>夕食後、樹生はプールで泳ぎたいと主張、パパが付き合っってプールに同行。ママと千智は、ミュージカル「ヘラクレス」を鑑賞。</p>	<p>大西洋に沈む夕日に少し感激。客室はやっぱ狭い。レストランの食事が豪華過ぎて、胃にもたれる。注文する食事の品数と調理方法には注意が必要。</p>
8月23日(金)	<p>船、バハマのナッソー島に接岸</p> <p>朝食：Beach Blanket Buffet</p> <p>9時に樹生を託児施設 Disney's Oceaneer Clubに預ける。9時15分、美澄はスパで美顔トリートメント、パパは9時30分に千智をディズニーお姫様キャラクターとの写真撮影会に連れて行った後、託児施設に預け、10時過ぎからフィットネス施設にてジョギングエクササイズ。11時頃ポケベルで呼ばれて千智をピックアップ。</p> <p>昼食：Triton's レストラン</p> <p>昼食後樹生をピックアップし、家族全員で子供プールに繰り出す。2時間30分も樹生に付き合わされる。</p> <p>夕食：Parrot Cay レストラン</p>	<p>バハマといえばトム・クルーズ主演の映画「カクテル」やショーン・コネリー主演の007映画「サンダーボール」(だったと思う)で紹介されたリゾートアイランドだ。美澄と2人だけだったら下船してカクテルを味わうのも妙案だったが、子供達にカクテルは全く無意味で、結局船内のお子様用プールで樹生の水遊びに付き合っって過ごした。</p> <p>17時、子供2人とも昼寝開始。18時に無理矢理子供を起こして夕食に連れ出そうと試みたが、起こすのに一苦勞。完全に子供達の昼寝のタイミングを誤った悔いの残る1日だった。</p>
8月24日(土)	<p>船、キャストウェイ・キー（ディズニー所有の珊瑚礁）に接岸</p> <p>10時過ぎからキャストウェイ・キーのビーチに繰り出し、2時近くまで海水浴</p> <p>夕食：Triton's レストラン</p> <p>夕食後、樹生はまたもやプール、パパが同行す</p>	<p>キャストウェイ・キーが1日中晴れたのは、ここ半年ぐらいで初めてだったとか。お陰でビーチで4時間ほど過ごせ、肌の焼け具合もピークに。樹生君は殆どポリネシアン状態。</p> <p>昼間のビーチに飽き足らず、樹生はプールで泳ぎたいとだだをこねる。お陰でパパは</p>

日付	行動	寸評
	るが、プールには誰もおらず、貸し切り状態で1時間を過ごす。ママと千智は「ディズニー・ドリーム」なるアトラクションを観賞。	またもや樹生に付き合わされる運命に…クルーズの夜風が濡れた肌にこたえ、風邪をひくのではないかと思った。
8月25日(日)	<p>早朝、船はカナベラル港に到着。下船手続 ひたすら移動(カナベラル港→オーランド→ゲインズビル→ジョージア州レイクパーク→ストックブリッジ)</p> <p>昼食：ツインレークス(ジョージア州)の中華料理レストラン(店名不明)</p> <p>夕食：ストックブリッジ(ジョージア州)の中華料理レストラン「漢宮(China Wok)」</p> <p>宿泊：AmeriHost Inn at Eagles Landing(ジョージア州ストックブリッジ) 44ドル</p>	<p>当初予定していたケネディ宇宙センター(フロリダ州ケープカナベラル)観光を取りやめ、ひたすら車を飛ばした。走行距離475マイル(約760km)。途中、食事やトイレ休憩、給油ストップを挟んで約9時間30分のドライブだった。ジョージア州に入ってからハイウェイ75号線は、沿道に綿花畑が広がり、いかにも伝統的な南部農業の風景。</p> <p>ディズニーのこってり系料理にうんざりしていたので、この日の中華料理のあっさりした味わいには救われる思い。夕食まで中華にしたのは、モテル周辺には中華以外全てファーストフード店だったから。</p>
8月26日(月)	<p>移動(ジョージア州ストックブリッジ→アトランタ→テネシー州チャタヌーガ)</p> <p>チャタヌーガ・チューチュー グレン・ミラーの同名のジャズ演奏で有名となった「チャタヌーガ・チューチュー」は、鉄道ターミナルを改装したホテル「ホリディイン」の一角を占める娯楽コンプレックス。模型電車博物館を見た後、ホテル内のレストランで昼食。</p> <p>移動(チャタヌーガ→ノックスビル→バージニア州ロアノーク→アーリントン)</p>	<p>朝、樹生に元気がない。喉が痛いらしく話すこともできない。結局、前夜計画していた観光は、樹生が行きたがった「チャタヌーガ・チューチュー」だけを残し、全てキャンセル。朝9時30分にモテルを出発し、途中チャタヌーガの休憩を挟んで約12時間30分ひた走り、午前12時過ぎに帰宅。走行距離729マイル(約1170km)。疲れた。</p> <p>17日に出発してからの通算運転時間は40時間丁度となった。</p>

フロリダ家族旅行でのこぼれ話

- **王子様は遊園地よりもプールがお好き？** :
旅に出る少し前の話になるが、我が家の子供達は、隣りのオシローネシー家の子供達と一緒に、フォート・マイヤーにある軍のレクリエーション施設に出かけ、プールで遊んできた。その時に同行した美澄によると、樹生は全く泳げなかったようだ。一体、サマースクールでプールに連れて行って何をやっていたんだろうと美澄は嘆いていた。折角だから家族旅行の間に少しは泳げるようにしてやろうと考えた私は、ジョージア州サバナでの最初の宿泊から、樹生のプールに付き合った。ゴーグルなしで水中ジャンケンを試みたところ、樹生はちゃんと水中でも目を開けられるようになった。パパは小学校入学後に洗面器の水で練習してやっとこさできたことだ。WDWでの宿泊時も、樹生は各種



今日もまた「ボクはプールに行きたいの！」



今日もビーチで砂遊び。これでもうプールはないだろうとパパは期待していたが、夕方になってまたもや「ボク、プールへ行きたいの！」

フロリダくんだりまで来ずとも近所のプールで十分だった。無理矢理アトラクションに連れて行けば樹生もそれなりに楽しんでくれたけれども、毎日の日課にプールを入れられては、親は十分楽しむことはできない。ところで、肝心の水泳技術の方であるが、ゴーグル付けて遊ばせている間に、クロールがさまになってきたような気がする。樹生よりも泳ぎが上手い同年代の子供とプールで遊ぶうちに、徐々にマスターしているようだ。(浩司)

- こんなところにいちやいけないのでは？ : WDWのリゾート施設の印象はと聞かされると、私は「超肥満の観光客がやたらと目立つこと」と答える。ワシントン界限での生活でも少し肥満気味のアメリカ人を見かけることがないわけではないが、WDWの観光客はそれはそれはヒドイ。親も親なら子供も子供、一族郎党全て肥満というファミリーを何組も見かけた。ここのレストランは値段もバカにならないがボリュームもスゴイ。バイキング形式で好きなだけ食べられるレストランも多いが、太った人の取る量は半端ではない。超肥満ファミリーが、テーブルを占拠して今にも壊れそうな木製の椅子に座っている姿は、見るに耐えない。ファミリーのマスコットの存在の孫はとてもカワイイが、20年先を考えると怖い気がする。親だけではない、子供達の中にも結構強烈な肥満体の子を見かける。WDWの広い娯楽施設を歩いて観光するのはそれなりに体力も使うことは確かにその通りだが、フロリダに来る前から身に付いている食生活はなかなか変えられない。いや、普通の食生活をしてきた我々ですら、フロリダにいる間に少し太った。今回の旅行中、少しぐらいは自由時間があるだろうと期待して、私は仕事と直接関係のない本を3冊ほど携行した。その1つは、私の日本福祉大学通信制大学院の学友である小野行雄さんが書かれた「NGO主義でいこう」だった。学友の著作ということから興味本位で読み始めた。小野さんの主張を100%支持するつもりはないけれど、1つ思ったことは、卑しくも開発途上国の貧困問題と取り組むことを生業としている現役の業界人が、飽食のアメリカ文化の縮図とも言うべきフロリダWDWで、優雅に(実際には家族サービスで苦闘の日々であったが)バカンスなどやっていちゃいけない、小野さんに顔向けできないということだ。長い夏休みを取ってこういう骨休めをする世界銀行の職員が、会議で貧困問題を語るのはなんかうそ臭いではないか。子供に振り回された美澄ママも「もう来たくない」と連発しているが、私は別の理由から、こんな夏休みの過ごし方はよくないのではないかと反省した。青臭い書生論かもしれないが、業界人には業界人ならではの休暇の過ごし方があるように思う。(浩司)

アトラクションよりもプールで遊びたがった。ひどい時は、夜10時にホテルに戻ってパパがヘトヘトに疲れているのにも関わらず樹生にプールに連れて行けとせがまれ、嫌々1時間水遊びに付き合ったこともある。フロリダのこの季節は午後には必ず大きな夕立があり、落雷の心配があるために夕立の時はプールで遊ぶことはできない。樹生はそれが理解できずにダダをこねることもしばしばだった。ディズニークルーズでも樹生の行動パターンは相変わらずで、初日の夜からプールに行きたいと言い張った。2日目の午後も2時間半の水遊びで、夕食の予定時刻の直前になって無理矢理客室に連れ帰ったまでは良かったが、案の定疲れて眠ってしまい、無理に起こしてレストランに連れて行くのが大変だった。こんなにプールが好きだったら、

- **レーシングドライバー合格？**：旅日記でも触れたが、WDWのテーマパークの1つ「エプコット」を訪ねた際、パパと樹生はゼネラルモーターズが主催する「テストトラック」という施設でテストカーに乗ることになった。テストカーは前3人、後3人の6人乗り。私達の前で待っていたのが2組ともカップルだったため、前と後に1席ずつ空いた状態で私達の順番が回ってきた。仕方なく樹生を前に乗せ、私は後ろに座ったわけだが、単にバンクの急なテストコースを何周か周回するだけだろうとたかをくくっていたら、実際にはブレーキテストとか、ハンドリングテストとか、前後左右の制動チェックやら凹凸の激しい路面での走行テストとか、いろいろあった上で、締めがテストコースで時速160kmという、樹生にとって超ハードな乗り物だった。一緒に乗った私ですらびびったこのコース、樹生がいつ悲鳴を上げるか、はたまた気絶するかとハラハラしながら過酷な2分間を過ごし、ようやくゴール地点に辿り着いた。すぐに樹生に大丈夫かと声をかけたところ、樹生は「大丈夫だよ」と平然と言った。たまげたパパは、樹生にせがまれるままにご褒美としてテストカーのミニチュアを買わされてしまった。樹生の夢がレーシングドライバーになることだというお話は「サンチャイ通信」第16号でも紹介したが、こいつは本当になれるかもしれないと思った。(但し、この話にはオチがある。コースの途中でカメラが写真撮影をしていて、建物の出口のところで観光客は写真を見て気に入ったら注文して写真を買って帰れる仕組みになっていた。早速樹生の表情はと調べてみたところ、樹生はハンドルを手放して両手で耳を押さえ、目を閉じていたことがわかった。これじゃ大丈夫なわけだ。レーシングドライバーどころか、普通乗用車の運転も失格だ。)(浩司)
- **あたしはシンデレラ姫よ！**：我が家の王子様はディズニーよりもプールだったのだが、プリンセス千智嬢の方は逆にディズニーを満喫していた。キャラクターとの写真撮影のみならず、ディズニーアニメのお姫様キャラクターや、くまのプー、ピーターパンのアトラクションを、大きな歓声を上げて見ていた。「エプコット」の花火では、打ち上げられる花火の色に合わせて「イエロー!」「パープル!」「レッド!」と叫び、サーカス「ラ・ヌーバ」の中国人女の子の曲芸には「ちーちゃん、ちーちゃん」と叫んで興奮して見ていた。樹生は自分の欲しいものははっきり主張するが、千智の場合はどんなオモチャが欲しいかはっきり言うことは稀だ。そんな千智が、「ラ・ヌーバ」の曲芸で使われた器具を欲しがったり、MGMスタジオのお土産物売り場で「リトル・マーメイド(人魚姫)」の人形を欲しがったり、今回ばかりは何が欲しいかはっきり主張していた。クルーズの船内では、シンデレラ、アリス、白雪姫といったディズニーのお姫様キャラクターとの写真撮影会があり、千智に「シンデレラを見に行こう」と誘ったところ、千智は「違う!あたしがシンデレラなの!」と主張した。それでも、お姫様の前では嬉しそうにカメラの前に立つのであった。(浩司)
- **ラスベガスの二の舞**：フロリダ旅行の帰路は、往路と異なり、ジョージア州アトランタ廻りで長編小説「風とともに去りぬ」のゆかりの地を巡り、その後テネシー州チャタヌーガで鉄道関連施設を幾つか見る計画を立てていた。途中3泊して28日中に帰宅するという予定だった。25日朝のクルーズ下船後、ケープ・カナベラルの「ケネディ宇宙センター」見学もキャンセルしてひたすら車を走らせ、アトランタ近郊のジョーンズボロ(「風とともに去りぬ」でスカレットが言及していた「タラ」のモデルとなった土地)近くに宿をとったまではよかったが、下船後樹生の咳が目立ち始め、翌朝は喉が痛くてろくに話もできず、パジャマ姿で動くのも面倒臭そうだったので、「チャタヌーガ・チューチュー」を除く全ての予定をキャンセルし、26日中に帰宅すべく一気に走った。樹生が自分が遊びたいことだけ思い切り遊んだ後で体調を崩して家族の足を引っ張るのは、去年のラスベガス旅行と全く同じパターンだ。確かに、チャタヌーガの昼食でも食欲がなさそうだったのは間違いない。それなのに、深夜帰宅後オモチャで遊ぼうとしたり、翌朝も朝から大声を張り上げて家の中を走り回ったりした。怒りが込み上げるとともに、樹生に多少無理させてもパパやママの行きたい所には行くべきだったと後悔した。ジョージアやテネシーなんて、次に訪れる機会があるとはとても思えない。去年の夏に断念したモニュメントバレー行きも、今のところ実現の目処が全く立っていないのだ。(浩司)

- **そして、ママの旅のご感想**：車の旅は遠かったけど、アメリカ的な旅で途中の風景を楽しんだり、寄り道をしようと思えばできるし時間があるのならオススメ。その分浩司さんは運転し通しだったので、負担が大きかったと思いますが、「運転好きだから。」と言ってずっと運転してくれました。パパに感謝です。またこの贅沢な旅をさせてくれてありがとう。

ディズニーワールド（WDW）とクルーズに行きたいと言い出した私ですが、その感想は、広い、すごい、高い、疲れるです。暫くは行きたくありません。クルーズならまだしも、WDWは広いし、見るところは沢山あるし、ディズニーで過ごせるお金があれば、本当に楽しませてくれる所でした。ただ、毎朝樹生を説得するところから1日が始まりました。気に入らないと怒ってむくれ、叩く樹生を何とかなだめすかしてテーマパークに連れて行くと、樹生はそれまでごねていたことなどすっかり忘れて楽しんでいます。そんな樹生を見てみると、何でこんな思いをしながら、遊びに来なければならぬのかと思ったものです。

私が一番楽しかったことは、シルク・デュ・ソレイユのパフォーマンスです。日本で見たときよりも距離が近い一見の価値あります。そして船でスパ（エステのような物）に行けたこと。

食事はとにかく量が多く食べ放題だから元をとらなきゃという貧乏根性を発揮して、出された食事を殆ど平らげたらしっかり太って帰ってきました。今の課題は身に付いた贅肉をいかに落とすかということです。特にクルーズはツアー代に食事が含まれているので、思いっきり食べていました。本当にデブ養成所とはよく言ったもので豚になった気分です。

それにしても、洋食が続いた後に和食を食べるとほっとします。カナダにいた頃は洋食が続いても大丈夫だったのに年齢のせいでしょうか？（美澄）

編集後記

- 今回は、フロリダ特集ということで、フロリダ滞在中、家族が寝ている間にどんどん編集を進めていた上に、樹生の咳のお陰で当初の予定よりも2日も早く自宅に戻って来てしまったので、前号から僅か2週間で編集を終了いたしました。結局10日間の旅行でしたが、それでもこんな長い家族旅行はもう暫く御免です。もっと近場で、しかも子供達のアトラクション優先ではなく、自分達にもメリットのある短期間の旅なら、行ってみたいところは幾つもあるのですが…帰路で通ったバージニア高原では既に紅葉が進んでいました。ワシントン界限も、私達が留守の間に季節が変わったような気がします。（浩司）
- 本当に贅沢な旅でした。車の旅もなかなか良かったので今度はカナダにも行ってみたいな、など思っていますが、浩司さんは暫く嫌かな？（美澄）
- 旅行から返って来てある日の夕方、夕食の準備をしていると玄関を叩く音がするので出てみると、隣



りのトムは調査をしているという政府関係の女性（身分証明書を見せてくれたが、速すぎてよく解らなかった）が立っていました。質問内容は、「人柄」「どのぐらいの頻度で彼と会うか？」「家族同士の付き合いはあるか？」「麻薬やアルコール中毒か？」「経済的に困っていそうか、または派手にお金を使っているか？」「警察が来たことがあるか」「アメリカに対して忠誠心があると思うか？」など10問ほどのものでした。私はトムの不利になってはいけないと思い慎重に答えましたが、ちゃんと英語を理解していない可能性もあるので、念のため英語は第二言語であることを断っておきました。突然だったのでちょっとドキドキしました。後でニーナにそのことを話すと、トムは陸軍士官であるため何年かに一度身辺調査を受けるとのことでした。国家機密などに関わっているような仕事に携わる人はこういう身辺調査を受けるそうで、CIA、FBIなども同様だそうです。本人には身辺調査をすることを事前に知らせてあるそうですが、国家の安全を守るためにとても慎重なアメリカの一面を垣間見たような気がします。（美澄）